

平成28・29年度のご挨拶

(一社) 岐阜県臨床検査技師会

会長 兼子 徹

会員の皆様、賛助会員の皆様、平成28・29年度一般社団法人岐阜県臨床検査技師会会長（2期目）に就任いたしました、兼子 徹です。1期目には多くの部長理事に留任いただき、安心だったのですが、今回は、私と浅野 敦 副会長（大垣市民病院）以外の常務理事が交代となりました。当面は、前副会長・部長の業務を引き継ぐことになると思いますが、やがて新副会長・部長のカラーが出て、面白いことになるのではないかと楽しみにしています。

新任 棚村 一彦 副会長（多治見市民病院）
高木 康雄 庶務部長（羽島市民病院）
乙訓 貴之 会計部長（岐阜医療科学大学） おとくに部長です
清水 康之 組織調査部長（大垣徳洲会病院）
帖佐 光洋 学術部長（岐阜大学医学部附属病院） ちょうさ部長です
高崎 昭彦 広報宣伝部長（岐阜医療科学大学）
佐藤 恵彦 精度管理事業部長（関中央病院）
柴 千春 渉外（法人対応 改め）部長（岐阜県産業保健センター）



さて、（一社）岐阜県臨床検査技師会は、かねてより研修会（いわゆる卒後教育）と精度管理調査のシステムを整備してきました。臨床検査技師の知識・技術と臨床検査の精度は高まり、評価をいただける水準に達していると思います。

その水準をさらに高めつつ地位の向上を目指す、次の段階に進むときがやってきました。我々、臨床検査技師は医師や看護師に寄りかかって何とか立っているように見えますが、実は自立しているとは言えません。臨床検査に関することは臨床検査技師が行うということが、当たり前となったとき、本当の意味で地位が確立し、我が足で立っていると胸を張れると思います。

とはいえ、一朝一夕に実現はできません。外向きには「知名度の向上」内向きには「業務拡大」を目指し地道な活動を続けていきます。もちろん、卒後教育・精度管理も力を抜くわけにはいきません、引き続きのご理解とご支援、よろしくお願いいたします。

最後に。退任されました旧理事の皆様には大変お世話になりました。お陰様で何とか無事1期目を終えることができました。深く感謝いたします。

平成28年8月



平成28・29年度 役員決定!

会長	兼子 徹	澤田病院
副会長	浅野 敦	大垣市民病院
	棚橋 一彦	多治見市民病院
常務理事(庶務部長)	高木 康雄	羽島市民病院
常務理事(会計部長)	乙訓 貴之	岐阜医療科学大学
理事(岐阜地区)	後藤 浩	岐北厚生病院
	早川 恭江	長良医療センター
	林 博之	東海中央病院
理事(西濃地区)	松浦 康博	メディック
	川島 直樹	西美濃厚生病院
理事(中濃地区)	林 泉	美濃市立美濃病院
	青木 洋子	郡上市国保白鳥病院
理事(東濃地区)	美濃輪 緑	県立多治見病院
	市川 浩良	中津川市民病院
理事(飛騨地区)	舟橋 信司	高山赤十字病院
	佐々木 昭光	須田病院
	荒井 亨	久美愛厚生病院
理事(組織調査部長)	清水 康之	大垣徳洲会病院
理事(学術部長)	帖佐 光洋	岐阜大学医学部附属病院
理事(広報宣伝部長)	高崎 昭彦	岐阜医療科学大学
理事(精度管理部長)	佐藤 恵彦	関中央病院
理事(渉外部長)	柴 千春	岐阜県産業保健センター
監事	森 さゆり	岐阜中央病院
	太田 義和	東海細胞研究所





『雑感』

岐阜県立下呂温泉病院
諏訪 浩（前副会長）



広報委員の方から役員を終えて感想を書くよう依頼されましたので振り返ってみました。平成25年、前任者の退職により任期途中から飛騨地区理事として一年間何とかやり過ごし、そのまま次の任期(平成26・27年度)第一回理事会の席での事です。役員選出が始まり、ここでは思いの外次々と役員が決定して行くではありませんか。それまでに主だった方には根回しされていたのでしょうか。結果、副会長の一人枠だけが残ってしまいました。それも飛騨地区だけは他の役を受けていません。もう、その場の雰囲気から、ましてや三名の飛騨地区理事の内二名は新任です。痛い視線を受け、やらざるを得ないです。恐る恐る手を挙げました。「副会長をやらせてもらいます」このようにして副会長を拝命しました。その後は他の役員の皆様に引っ張られるように任期が経過した次第です。兼子会長と浅野副会長を始め他の役員の方々はやる気満々の方でしたので私としてはとても有り難かったです。このお二人が今年度も引き続き残って頂けたので技師会も安泰であると思っています。

また、役員となり色々な研修会・総会・学会へ出席しましたが心に残っている事は、若い人の頑張っている姿です。それまで自分が思っていたよりも世代交代が進み若い人達のやる気を感じました。今後の技師会活動に期待します。なお、あまり技師会に興味の無い方も一度、技師会を頼ってみてください。結構良い仕事してますよ！！



『新役員に就任して』



岐阜大学医学部附属病院 帖佐光洋

今期から学術部長を務めさせて頂く事になりました岐阜大学医学部附属病院の帖佐光洋です。学術部の引き継ぎでは蓄積された莫大な資料をお預かりしましたが、それ以上に前任の近藤先生の大きな思いを託されました。会員のための楽しく学べる研修会を多く開催し、手技を主体とする学術研修会の開催など勉強する場などを多く提供したいと思っています。しかし初めてのことで皆様に教えを請うことや、不慣れな部分もたくさんあるかと思っています。何卒お力添えをいただきたいと思います。また多くの会員の皆様にご参加頂けるように企画、準備する立場に代わることになり不安が多いのですが、先輩理事の皆様にご指導頂き、職務を遂行していきたいと思っています。



新人サポート研修会

平成28年5月29日（土）

岐阜医療科学大学 早緑ホール



4年間の「新人サポート研修会」を振り返って

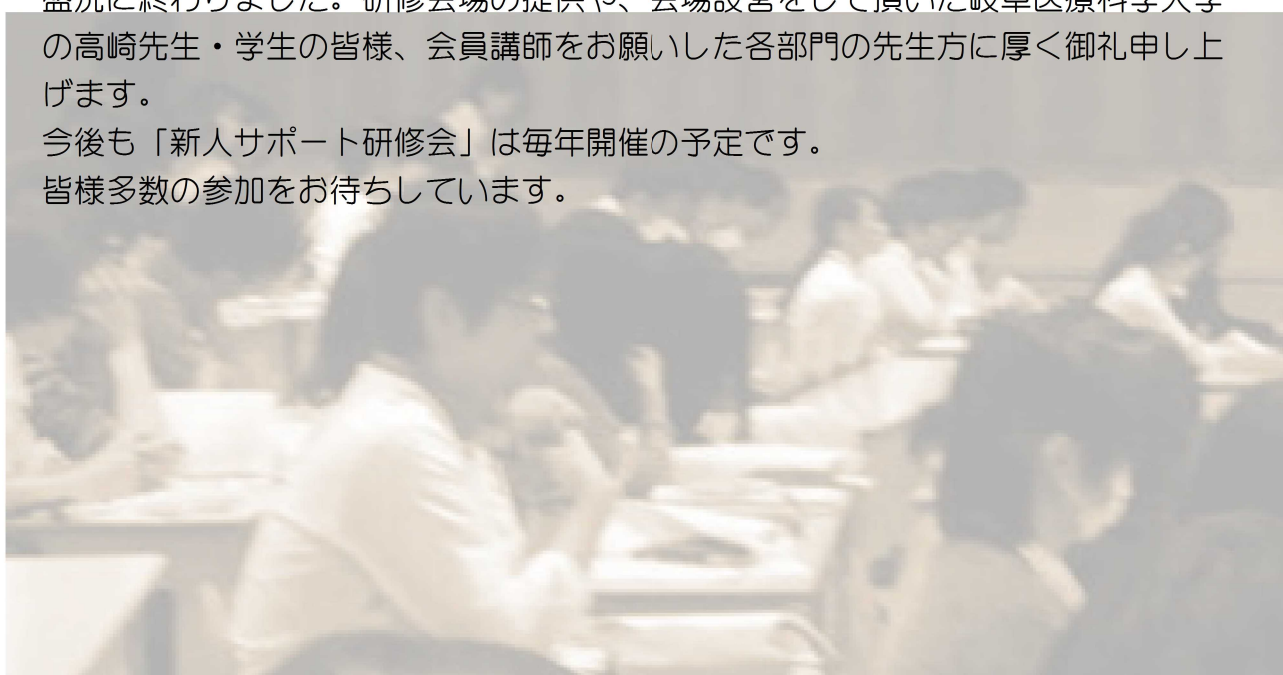
医療法人 社団 誠広会 平野総合病院 臨床検査課
技師長 近藤 真一

岐阜県臨床検査技師会における「新人サポート研修会」の歴史は浅く、平成25年5月25日に岐阜中央病院で臨床化学免疫血清検査研究班による「緊急検査入門①」が始まりで、同年7月20日に「緊急検査入門②」を開催して多数の参加を頂きました。翌年には名称を「新人サポート研修会」と改め7月20日岐阜医療科学大学で開催しました。以後「新人サポート研修会」は部門の研修会ではなく、岐阜県臨床検査技師会が主催で学術部が担当し、講師も外部講師ではなく各部門の会員講師で運営する研修会として生まれ変わりました。開催時期も7月から5月に変更して、新しく入職された臨床検査技師や岐阜医療科学大学の学生実習前学習に役立てて頂く内容にしました。

今年は5月29日（日）午前9時から午後5時まで岐阜医療科学大学の早緑ホールで7部門の研修を行いました。一般会員が87名・学生33名の合計120名の参加があり盛況に終わりました。研修会場の提供や、会場設営をして頂いた岐阜医療科学大学の高崎先生・学生の皆様、会員講師をお願いした各部門の先生方に厚く御礼申し上げます。

今後も「新人サポート研修会」は毎年開催の予定です。

皆様多数の参加をお待ちしています。





「新人サポート研修会に参加して」

医療法人社団誠広会
岐阜中央病院臨床検査課
北平 さやか



新人サポート研修会に参加し、生化・一般検査・血液・病理・生理・微生物・輸血と多岐にわたる分野の基礎的な知識を学ぶことができました。現在、生理機能検査を担当しているため検体検査に関わる機会が減り、どこか不安な思いがある中業務をしていた私にとっては、各分野における先生方が基礎的な内容を画像や図表を用いて分かりやすく説明をしてくださったおかげで、データの見方や考え方など翌日からの日常業務に大変参考になりました。いかなる現場においても適切な診断かつ迅速なデータを報告しなければなりません。そのためには検体採取から保存方法など正しい検体の取り扱い方や患者様の状態把握、そして各分野における総合的な判断力の必要性を改めて実感しました。

今回の研修会で学んだことを今後の検査業務に活かし、専門的な知識、技術の習得に向けて多くの経験を積んでいきたいです。



検査業務の手技を覚えるのに

大変かと思いますが、

そろそろ慣れてきたころでは？

データの意味、検査業務を

総合的に理解することが大切なので、

今回の研修はためになったのでは？

頑張りましょうね！

(運営スタッフより)



春季拡大研修会 & 定時総会

平成28年6月5日（日）

大垣市情報工房 インクホール

平成28年度春季拡大研修会報告

松浦 康博（メディック）

西濃地区担当 実務委員長として報告させていただきます。

6月5日（日）平成28年度春季拡大研修会を開催しました。

当日は、会員86名、賛助会員16名の計102名のご参加と、市民公開講座38名（一般市民）のご参加がありました。今回のテーマは『大腸・内視鏡』を主題として病理・細胞部門、臨床一般部門担当で実施しました。

①病理・細胞 部門 研修会 『 からだに優しいがん治療 ―大腸癌を例にあげて― 』

講師：東海中央病院 副院長（第1外科部長） 日比健志 先生

司会：東海中央病院 検査部 日高 祐二 技師

②臨床一般 部門 研修会 『 大腸がん検診最近の話題―新たなモダリティの登場とその位置付け― 』

講師：岐阜赤十字病院 副院長 名倉一夫 先生

司会：岐阜赤十字病院 検査部 林 晃司 技師

③ランチョンセミナー

1) 『 分子標的治療薬選択のためのコンパニオン診断 』

講師：ロッシュ・ダイアグノスティックス株式会社 谷 洋一氏

司会：東海中央病院 検査部 日高 祐二 技師

2) 『 H. pyloriにおける感染診断法の現状と胃がんリスク診断“ABC分類” 』

講師：栄研化学株式会社 マーケティング推進室 阿部雅仁氏

司会：岐阜赤十字病院 検査部 林 晃司 技師

④市民公開講座 『 思春期の子どもとその周囲の大人に知っておいてほしいメンタルヘルスの基礎知識 』

講師：東京大学大学院教育学研究科 博士課程 小塩靖崇 先生

司会：岐阜中央病院 臨床検査課 森 さゆり 技師

以上の各講師の先生 部門長の方々にお世話になりました。

最新の大腸癌の治療・検診・内視鏡の進歩について知識が深まりました。

市民公開講座では思春期の精神疾患のメンタルヘルスリテラシーについて知識を得ることが出来ました。技師会会員の知識、技術を各研修会参加・参画でもって向上させ各施設間での風通しの良い環境をつくり岐阜県の技師会全体の活動を盛り上げて行きましょう。



春季拡大研修会に参加して

大垣徳洲会病院
清水 康之

今回、平成28年度春季拡大研修会に参加しました感想を報告させていただきます。メインテーマは大腸・内視鏡ということで、2名の先生から腹腔鏡手術の中でも低侵襲化が進んだ単孔式の腹腔鏡手術について、最近の大腸がん検診の話の話を聞きました。大腸がんは健診を受ければ死亡率が減少していく疾患ですので、医療機関で働くものとして、受診率を向上させていくためにも、周りの人に啓蒙を行っていかねばならないと思いました。ランチオンセミナーでは分子標的治療薬選択のためのコンパニオン診断についてと、H. pyloriにおける感染診断法の現状と胃がんリスク分類について聞きました。H. pylori抗体の検査では当院で現行の検査ではグレーゾーンの範囲があるのでそこをいかに無くすかが大事であると思いました。



最後に市民公開講座でメンタルヘルスの基礎知識についてアニメを使って分かりやすく講義をして頂きました。自分の子供もこれから思春期に入っていくわけですが、どのように対応していけばよいかヒントを頂いた気がします。最近目にした週刊誌等で医療について否定的な記事を目にしましたが、県民の健康の保持・増進に寄与する為にもこのような研修会を行っていくことは大切だと思いました。



功労賞

今回の功労賞表彰におきましては、岐阜県臨床検査技師会兼子会長をはじめ会員の皆様に感謝申し上げます。私は平成7年から4年間、臨床化学研究班の班長を務めました。当時の仕事としては、研修会は勿論の事、精度管理調査も実施しておりました。当時の精度管理調査は参加施設も現在よりも少なく、ほとんどが生化学項目でありました。一部免疫の項目（IgG、IgA、IgM、CRP）も取り入れましたが、評価するには絶対数が少なすぎるため評価が難しい項目もありました。その中で最も苦勞したのは統計処理と集計した表及びグラフの作図で、統計処理は専用のソフトが無いため前会長の北村先生とエクセルで集計から作図までを行ったことを覚えています。また、報告会も実施しましたが、現在のように精度管理が行き渡っていないこともあり、参加施設も数施設でありました。現在は、技師会の中には精度管理専門の部門もあり、参加される施設の数も増えたことは技師会全体の精度管理に対する意識が高まっている証だと思っています。

今回は、功労賞表彰誠に頂きまして、誠に有難うございました。今後の岐阜県臨床検査技師会会員の皆様のますますのご活躍を心よりお祈り申し上げます。

岐阜医療科学大学 前田 悟司

このたび、「永年職務精励賞」を拝受いたしまして、身に余る光栄であり、感謝申し上げます。顧みますと、平成元年5月に大垣市民病院に入職して以来今日までの間、臨床検査の業務に携ってまいりましたが、これもひとえに、多くの諸先輩、同僚、後輩の方々のご指導、ご支援、ご協力の賜物と存じております。この場をお借りして心より御礼申し上げます。

少々前の話ではありますが、2011年8月に、アメリカデューク大学の研究者である、キャシー・デビッドソン氏が、ニューヨークタイムズ紙のインタビューで語った予測が教育界を中心に波紋を呼びました。その内容とは、「2011年度に、アメリカの小学校に入学した子供たちの65%は大学卒業時に今は存在しない職業に就くだろう。」というものでありました。日本の教育界では、65%という数字は米国を対象とした予測であり、日本でも同じようになるかは分からないとしたものの、仕事、その雇用の前提となる専門性の変化が常態化し、職業が安定した存在でなくなることは間違いないだろうとの危機を持たれたことも事実であったようです。

これが教育界での事例とはいえ、職業として日々携っている臨床検査、臨床検査技師という職種として捉えた場合、我々にとっても全く無縁の内容ではないような気がしております。無論、臨床検査、臨床検査技師という職業・職種がなくなるとは考えませんが、他方で日進月歩の医療界において、幅広い教養を持った感受性豊かな人間性、人間性への深い洞察力、倫理観、生命の尊厳についての深い認識、医療人に求められる態度・技能・知識の習得は我々の命題であり、かつ今後の若い世代にも引き継がなくてはならないことであると改めて切に願うものであります。

このたびの表彰を受けましたことを機に、私自身気持ちを新たに今一層業務に励む次第であります。今後も、皆様方の尚一層のご指導、ご鞭撻をお願い申し上げ、謝辞とさせていただきます。

大垣市民病院 日比 敏男

功労賞

坂本 寛文

前田 悟司(医療科学大学)

三田村 桂二(大垣市民病院)

各賞受賞の みなさま

おめでとうございます

永年職務精励賞

三輪 則之(東海細胞研究所) / 田中 勝憲(メティック) / 仲上 毅文(郡上市市民病院) / 梅田 江里子(可児とうのう病院)

武藤 延秋(東濃厚生病院) / 永田 寛彦 / 村井 祐子(県立多治見病院) / 尾畑 直美(松波総合病院)

田村 智子(メティック) / 古田 博子(総合木沢記念病院) / 橋本 智子(大垣市民病院) / 米澤 千佳子(県立多治見病院)

日比 敏男(大垣市民病院) / 榎間 利政(岐阜市民病院) / 山根 宏(平野総合病院) / 杉本 昌孝(垣内病院) (敬称略・順不同)

永年職務精励賞

検査説明「相談が出来る臨床検査技師育成講習会

平成28年7月23日（土） | 24日（日）
岐阜大学医学部附属病院

梅雨の曇り空の下、7月23日・24日の2日間、岐阜大学医学部附属病院の多目的ホールにて、受講生35名が参加し講習会が開催されました。

今年で最後の開催となり、内容も過去の参加者の要望を出来るだけ満たすように準備しました。最も大切な「臨床検査技師が検査説明・相談に取り組む意義や期待するもの」には、宮島喜文会長の熱い思いのビデオから始まり、平成24年25年度チーム医療推進検討委員会委員長、平成26年27年度メディカルスタッフ業務推進WG委員の奥田勲先生より、なぜ今「検査説明・相談」に取り組まなくてはいけないのか、2025年に向け医療の仕組みが変化する中での、社会の望む「臨床検査」の将来についての確にお話いただきました。

続いて岐阜大学医学部附属病院 サービスマネジメント メディエーターの松野泰子先生に患者のストレスの状態を理論的に受け止め対処する知識を学び考える講義をいただきました。冷静に患者に接し、検査説明をする際には重要な内容でした。

午後からは、日本サービスマナー協会認定講師 宇野悦加先生の「接遇の基礎」。姿勢から表情、挨拶、さらに言葉かけまでをグループで実践です。患者に会う時の良い第一印象は聞き手の心を安心させます。さらに、アッポトジャパン株式会社 山田逸枝先生から「患者接遇（相手との信頼関係を築くコミュニケーションの基礎）」を学びました。医療での敬語の使い方から傾聴まで。参加者も接遇研修経験が少ないようで真剣な様子でした。

2日目は岐阜大学大学院医学系研究科 伊藤弘康先生の「検査説明の実践」。研修医の患者説明学習ビデオを使って患者への説明手順を丁寧に説明していただきました。

その後は、岐阜大学大学院医学系研究科 白上洋平先生の「R-CPC」。実症例の検査結果を短時間で読み、病気を予測し、さらに追加検査予測まで。参加者全員がテキストの検査結果を見つめ、緊張感が漂っていました。

午後からは、2日間の総まとめ「模擬演習」と「検査説明実例」です。受講生が患者と説明役になって全員の前で検査結果を説明しました。患者への気配りをしながら、正確かつ分かりやすく伝える難しさを全員で共有しました。そして、最後の講演 岐阜中央病院での検査説明実例報告では、チーム医療とし血液浄化センターでの取り組みを報告させていただきました。

今回は、参加者の皆さんから、参加して良かった。自施設で「検査説明・相談ができる」そんなアンケート結果も頂きました。日臨技企画としては3年ですが、これからも形を変えて一緒にチーム医療への企画を考えて行きたいとも思っています。

これからの医療に求められる「パラダイムシフト」はそんなに遠い未来の話では無いようです。臨床検査技師へ求められるものや出来る事も大きく変わりそう



「検査説明・相談が出来る臨床検査技師育成講習会を振り返って」

医療法人 社団 誠広会 平野総合病院 臨床検査課 白河 克晃

宇野 悦加 先生



今回、将来予想される特定保健指導の検査技師参画に備えて「検査説明・相談が出来る臨床検査技師育成講習会」を受講しました。幸運にも模擬演習にて検査説明者役に選ばれ、用意された検査データを患者さん役に説明をしました。大変緊張しましたが二日間学んだことを思いだし、自己紹介、患者さんの本人確認、検査項目の説明をしました。できる限り患者さんに「分かりやすく」「親身」「失礼のないよう」に気をつけました。演習後はビデオ録画を参加者全員で確認し意見交換をしました。自分の演習をスクリーンに映されて評価されるという恐怖の五分間でしたが、客観的に自分の言動を観ることができました。さらに講師の先生、参加者の皆さんからアドバイスを頂くことができ、「自分は自分が思っているより笑顔が少なく威圧的な印象がある」「説明が不十分であり患者さんの不安不満につながる」など普段気づかないことに気づくことができました。本講習を通して検査の基礎が復習でき、接遇について多くを学びました。講習会を企画してくださった森先生を始め、講師の先生方、スタッフ、参加者の皆さんに感謝し、明日から現場に活かしたいと思います。ありがとうございました。

山田 逸枝 先生



奥田 勲 先生



伊藤 弘康 先生

「検査説明・相談が出来る臨床検査技師育成講習会での模擬体験感想」

総合病院中津川市民病院 医療技術部検査科 吉村 いづみ

私は今回の講習会で受診者役をやらせていただきました。受診者役にはシナリオがありますが、もちろん技師にはシナリオはなく、説明するために多くの病態知識と経験、どのような質問にも対応できる柔軟性、好印象を与えるマナーなど沢山の事が必要である事を学びました。講習会前は自分が技師としてどのような事をしなければいけないのか漠然としていましたが、講習会後は今必要とされている臨床検査技師像が見えてきました。チーム医療の一員として、検査データのプロとして今求められている事を改めて痛感しました。技師が検査説明できる環境の確立はとても簡単なことではありませんが、宮島会長がおっしゃっていた『我々が求められ出来るとされていることをしなければならぬ』と言う思いにさせていただきました。説明・相談の出来る臨床検査技師育成講習会は今回が最後という事です。検体採取の講習会のように今後の臨床検査技師に必要不可欠なものではないでしょうか。今後も形を変えこのような講習会が続く事を願います。



白上 洋平 先生



第3回GUMS学術フォーラムの開催について

会 期：平成28年10月22日（土）＜学園祭2日目＞

会 場：岐阜医療科学大学

メインテーマ：臨床と研究

開催概要：シンポジウム、会員発表

趣 旨：岐阜医療科学大学卒業生の自己研鑽を目的とし若手を対象に

学会発表形式で行う。参加に関しては卒業生以外でも可。

演題締切：8月末日

※詳細は大学同窓会HP＜<http://obog.gums.jp/event/3ndforum>＞

第3回
GUMS学術フォーラム
3rd Gifu University of Medical Science Academic Forum

メインテーマ 「臨床と研究」

会期：2016年10月22日（土）
会場：岐阜医療科学大学

大会長：間野 忠明 岐阜医療科学大学 学長
増田 豊 岐阜医療科学大学同窓会 会長
実行委員長：山岡 一清 岐阜医療科学大学 副学長

開催概要：特別講演、シンポジウム、口述発表、他

お問い合わせ
第3回GUMS学術フォーラム事務局
〒501-8592 岐阜県岐阜市平賀字長崎795-1
岐阜医療科学大学内
TEL: 0575-22-9401 FAX: 0575-23-0884
MAIL: forum@u-gifu.ac.jp

URL: <http://obog.gums.jp/event/3ndforum>
主催：岐阜医療科学大学 生涯教育委員会、岐阜医療科学大学 同窓会



IFBLS 2016（第32回世界医学検査学会）

開催期間：2016年8月31日（水）～9月4日（日）

発表日：9月2日（金）発表時間 12：30～13：30

会 長：宮島喜文

★演題①★

演題名：Evaluation of the cross-sectional area by ultrasound in peripheral neuropathy

演 者：Ako ITO¹, Tsuneo WATANABE¹, Megumi YAMADA², Koichi SHINODA¹,

Yuzuru NOHISA¹, Nobuyuki FURUTA¹, Hiroyasu ITO¹, and Mitsuru SEISHIMA¹

¹Division of Clinical Laboratory, Gifu University Hospital

²Department of Neurology and Geriatrics, Gifu University Graduate School Medicine

★演題②★

演題名：Effect of hypoxic training on renal function

: a cross-over study in healthy subjects

演 者：Tsuneo Watanabe¹, Juri Nakayama¹, Hazuki Ohashi¹, Koichi Shinoda¹,

Yuzuru Nohisa¹, Nobuyuki Furuta¹, Toshio Matsuoka², and Mitsuru Seishima¹

¹Division of Clinical Laboratory, Gifu University Hospital

²Department of Sports Medicine and Sports Science, Gifu University Graduate School of Medicine

第32回
世界医学検査学会
メインテーマ 国境なき臨床検査の革新—基礎から応用まで—
会 期 8月31日～9月4日

65th JAMT CONGRESS 2016 KOBE 第65回

日本医学検査学会

Challenge :
伝統の継続と未来への進化

開催期間：2016年9月3日（土）～9月4日（日）
開催場所：神戸国際会議場 他
大会長：中町祐司

ご氏名	ご所属	セッション名	区分	演題番号	月日	時間	会場名	施設 部屋名
野久 謙	岐阜大学医学部附属病院 検査部	(医)生理8	座長		9月3日(土)	08:45-09:21	第14会場	神戸国際展示場2号館 3F 3B会議室
中山 純里	岐阜大学医学部附属病院 検査部	(医)生理12	演者	7-69(291)	9月3日(土)	11:00-11:27	第14会場	神戸国際展示場2号館 3F 3B会議室
鎌田 千晶	社会医療法人蘇西厚生会 松波総合病院	(医)生理14		7-77(299)	9月4日(日)	13:55-14:31	第11会場	神戸国際展示場2号館 2F 2A会議室
澤村 聖子	大垣市民病院	(医)生理18		7-96(318)	9月4日(日)	13:55-14:40	第12会場	神戸国際展示場2号館 2F 2B会議室
乾 ゆう	岐阜市民病院 中央検査部	(医)血液7		3-38(152)	9月3日(土)	16:12-16:48	第17会場	神戸ポートピアホテル B1F 偕楽3
安藤 航平	岐阜県総合医療センター	(医)微生物18		1-101(81)	9月4日(日)	14:40-15:25	第6会場	神戸国際会議場 5F 502会議室
浅野 栄太	岐阜大学医学部附属病院	(医)輸血1		10-2(404)	9月3日(土)	08:45-09:30	第18会場	神戸ポートピアホテル B1F 和楽
林 晃司	岐阜赤十字病院	(医)一般5		8-36(385)	9月4日(日)	09:00-09:54	第12会場	神戸国際展示場2号館 2F 2B会議室

第63回 The 63rd National Congress of
Japanese Society of Laboratory Medicine

日本臨床検査医学会

学術集会

Challenge :
臨床検査の連携と協働

開催期間：2016年9月1日（木）～9月4日（日）
開催場所：神戸国際会議場 他
会 長：小柴賢洋

ご氏名	ご所属	セッション名	区分	月日	時間	会場名	施設 部屋名
牛丸 星子	岐阜大学医学部附属病院 検査部	(臨)一般検査 尿検査	座長	9月4日(日)	9:54-10:57	第11会場	神戸国際展示場2号館 2F 2A会議室
野久 謙	岐阜大学医学部附属病院 検査部	生理機能 循環器系検査1		9月2日(金)	17:00～		
竹村 正男	岐阜大学医学部附属病院 検査部	(臨)免疫学・輸血学 自己免疫・自己抗体検査	演者	9月3日(土)	10:15-11:09	第18会場	神戸ポートピアホテル B1F 和楽

関中央病院 検査科



当院は一般病棟50床、回復期リハビリテーション病棟50床、療養病棟50床の病院で、「すべての方に喜んでいただけるヘルスケアの提供」を理念として活動しています。

検査室は常勤5名、パート1名の6人で構成されており、休日、夜間は待機当番として24時間体制をとっています。当検査室の特徴として、1名が早朝病棟採血を実施して朝の病棟回診までに至急結果を報告しています。また、睡眠時無呼吸症候群の検査としてPSG（終夜睡眠ポリグラフィー）を2002年から導入し延べ1600件程の検査を実施しています。チーム医療としてはICT、NSTに

参加しています。ICTは加算1施設として他病院との連携を行っています。NSTでは教育認定施設として毎年他施設からのNST専門療法士研修の受講生を受け入れ、検査技師として研修を実施しています。当院はTQM(Total Quality Management)を中心としたQC活動にも力を入れており、毎年実施されるQC大会において検査科は平成25年度銀賞、平成26年度には金賞を受賞しています。

部署内のコミュニケーションとして、忘年会、新年会、慰労会など年間5～6回のコミュニケーション会を企画しています。特に「潜龍への道」と題して、定期積立をして資金が溜まる日を楽しみにしています。(佐藤恵彦)



施設紹介



大垣市民病院 外来採血室

大垣市民病院では、臨床検査技師が採血業務をするようになってから22年程が経ちました。1日の外来患者数は2,300人余りで、うち外来採血に600～800人の方がみえます。この外来採血患者数に対応するため、採血ブースを12席設け、臨床検査技師と看護師の総勢33名が当番制で、8時開始時には10人（常勤4人他部署から6人）、8時30分からは12人（常勤9人他部署から3人）体制で行っています。ピーク時を過ぎると9人に減らします。ピーク時での採血の待ち時間は30分以内になり、幸いにも患者様からの苦情はほぼ無い状況です。その分、採血従事者は息つく暇なく採血し続ける状態で、採血管の抜き差しで指を痛める事が多く、指を痛めずに採血する方法を思案しているところであります。

毎日多くの患者様に対して採血をしていますが、安全・確実な業務実施のために当院での取り組みを紹介します。採血管の種類・本数を確実に取りこぼしなく採血するため、採血従事者がパソコンにて照合をしています。採血整理券からパソコン画面を開き、採血管のバーコードより、種類と本数を照合できます。また患者様の情報を入力しておく事ができるため、アルコール消毒禁止、乳癌やシャントによる採血できない部位、過去にVVRなどの既往があった、血管を見つけにくい患者様に対して以前はどこで採血したかなどの情報を見ることができ、より安全に採血ができます。採血針は、採血従事者が針刺し事故を起こさないように、安全ロック付きの採血針のみ使用しています。採血台や採血従事者の椅子の上下動が簡単にできるため、車いすで見えた患者様にも調度いい高さに台を設定でき、採血従事者も座って採血できるため腰への負担が軽減できています。採血時には挨拶と笑顔で心がけ、緊張気味の患者様には積極的に話しかけ、患者様に不安を与えないようにしています。採血中にVVRや急変時に対応できるようにマニュアル作成し、実際に対応できるようにAEDや心肺蘇生を含めたシュミレーションも行い、反省点を生かせるようにしています。

最後に、採血は安全に、確実に、迅速にをモットーに日々努力していきます。(橋本智子)

広報宣伝部では会員の方からの寄稿を募集しています!!

発行所(一社)岐阜県臨床検査技師会

〒500-8384 岐阜市藪田南3丁目5番地10 コスタ岐阜県庁前603号

TEL 058-275-5596 FAX 058-213-0220

発行責任者 兼子 徹

編集者

高崎 昭彦

松浦 康博

種村 久子

E-mail

giringi-office@giringi.jp